

株主のみなさまへ

第88期 中間報告書

2012年4月1日－2012年9月30日

Top Message

株主のみなさまには、
平素より格別のご支援を賜り、
厚くお礼申し上げます。
ここに、当社第88期 上半期
(2012年4月1日から2012年9月30日まで)
のご報告を申し上げます。



代表取締役社長

家守 伸正

目次

Top Message	1
連結業績ハイライト	3
トピックス	5
[特集1]SMMのコーポレート・ガバナンス	7
[特集2]SMMのCSR	9
連結財務諸表(要約)	11
会社情報	13
株式状況	13
株式メモ	14

2012年度上半期(第1・第2四半期合計)の業績について

非鉄金属価格の下落により、経常利益は
前年度下半期(第3・第4四半期合計)と比べ
減益となりました。

当上半期の世界経済は、欧州経済の低迷、米国経済の回復の遅れに加えて、新興国においても減速傾向が強まりました。日本国内では、輸出産業の落ち込みが目立ち、景気回復の動きは鈍化しました。

当社業績に大きな影響を与える銅・ニッケルの価格は、期末となる9月にはやや持ち直しの動きがあったものの、全般としては上半期を通じて下落傾向となりました。エレクトロニクス業界では、液晶テレビの需要は引き続き低迷傾向となったほか、比較的好調だったスマートフォン向け電子部品も夏場以降は在庫調整局面となりました。

このようななか、当上半期の売上高は前年度下半期と比べ約4%減少し、3,985億円となりました。営業利益は前年度下半期と比べ約8%減少し、397億円となりました。経常利益では主に持分法投資利益の減少により、前年度下半期と比べ約17%減少の392億円となりました。



コーラルベイニッケル社(フィリピン)

2009年中期経営計画(09中計)の進捗状況

プロジェクトは順調に進捗しています。

フィリピン・ミンダナオ島でニッケル中間原料を生産するタガニートプロジェクトについては、順調に進捗しており、足元は80%程度の工事進捗となっています。2013年に建設完了、秋ごろの生産開始を予定しています。また、シエラゴルダプロジェクトをはじめとする銅鉱山開発プロジェクトも順調に進捗しています。

配当方針について

配当性向20%以上を継続します。

09中計期間の連結配当性向は20%以上を継続する方針です。これを踏まえ、当中間期の配当は14円/株とさせていただきます。

株主のみなさまへのメッセージ

今後も成長戦略を着実に推進し、企業価値の更なる向上をめざしていきます。

世界経済は安定感のない状況が続いており、金属価格・為替相場についても先行きは不透明な状況となっています。こうしたなかでも、成長戦略を着実に推進することにより、更なる企業価値の向上に努めてまいります。株主のみなさまにおかれましては、引き続き変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

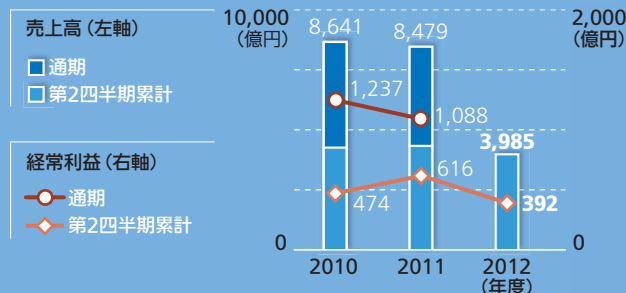
連結業績ハイライト

■ 売上高

3,985 億円

■ 経常利益

392 億円

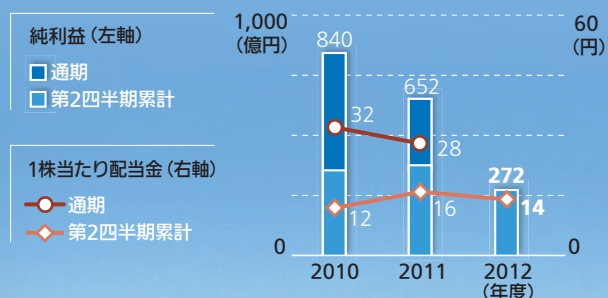


■ 純利益

272 億円

■ 1株当たり配当金

14.0 円



連結業績ハイライト

資源セグメント



セロベルデ鉱山

当期業績概要について

- 菱刈鉱山は順調な生産を継続しています。
- ポゴ金鉱山の産出量は5.3トンとなり、引き続き安定した水準での生産となっています。
- 海外銅鉱山は、銅価格が下落した影響により、減益となりました。

今後の展望

- 銅は、シエラゴルダプロジェクトを推進するとともに、海外銅鉱山の増産プロジェクトを進めていきます。また、開発案件の参入も引き続き検討していきます。
- 金は、菱刈鉱山とポゴ金鉱山の安定した操業に努めます。また、ストーンボーイプロジェクトを中心として、探鉱活動を進めていきます。

製錬セグメント



東予工場

当期業績概要について

- 銅製錬では、2011年秋に東予工場の自熔炉の大規模改修を行いました。現在は順調な操業を行っています。
- ニッケルでは、コーラルベイニッケル社、ニッケル工場、(株)日向製錬所の全てでフル操業を継続しています。

今後の展望

- 銅製錬では、引き続き生産性の向上に努めていきます。
- ニッケルでは、2013年秋の生産開始に向け、タガニートプロジェクトを推進していきます。また並行して、ニッケル工場でも電気ニッケル増産の設備投資を進めていきます。

材料セグメント



水酸化ニッケル

当期業績概要について

- 電池材料については、ハイブリッド車の販売増加に伴い、当社電池材料の販売も増加しました。
- 液晶の需要が低迷したことから、二層めっき基板の販売は低調でした。
- 2012年1月にボンディングワイヤー事業からの撤退を決定しました。この影響により、売上高は大きく減少しました。

今後の展望

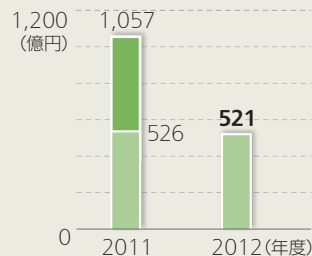
- 電池材料は、ハイブリッド車向けにシェア拡大をめざしていきます。また、次世代電池に向けた研究開発を進めていきます。
- 白色LED向けサファイア基板については、大型基板の量産を進めていきます。

注)セグメント間の取引が発生しており、当社の売上高として公表している数値はこれを消去した外部売上高の合計です。各事業の売上高、セグメント利益はセグメント間取引を消去する前の金額を表記しております。セグメント利益構成比は、3セグメント合計に対する比率を表記しております。

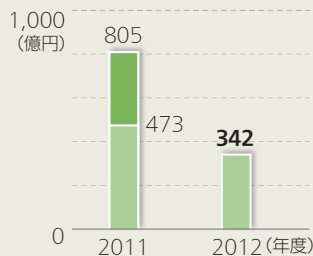
第2四半期累計

■通期 ■第2四半期累計

売上高



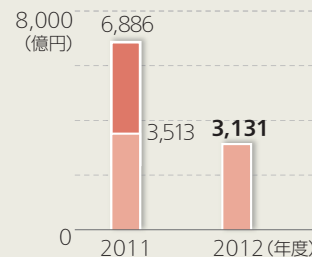
セグメント利益



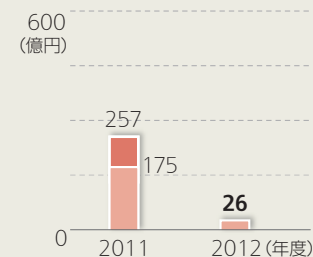
第2四半期累計

■通期 ■第2四半期累計

売上高



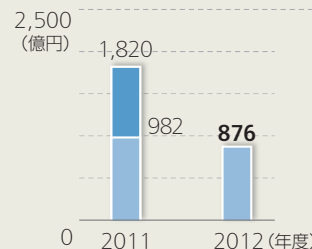
セグメント利益



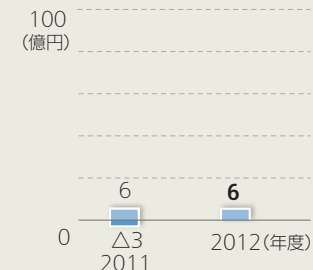
第2四半期累計

■通期 ■第2四半期累計

売上高



セグメント利益



セグメント利益 構成比

91.5%

セグメント利益

342億4百万円



セグメント利益 構成比

6.9%

セグメント利益

25億74百万円

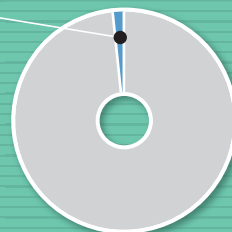


セグメント利益 構成比

1.6%

セグメント利益

5億92百万円



※2012年7月の組織改正により、2012年度第1四半期より「材料セグメント」「その他セグメント」の区分が一部変更されています。
本ページの材料セグメントの数値は、2011年度は旧区分、2012年度は新区分で表示しています。

2012年 3月

4月

5月

6月

7月

車載用二次電池正極材料の 生産設備の増強



磯浦工場の電池生産ライン

当社は、車載用二次電池正極材の中間材である水酸化ニッケルプリカーサー、およびその原料である硫酸ニッケルを増産することを決定しました。

ハイブリッド車や電気自動車の販売は近年急速に増加しており、二次電池正極材メーカーにおいてもその中間材である水酸化ニッケルプリカーサーの需要が増加しています。これに対応すべく、磯浦工場(愛媛県)で製造している水酸化ニッケルプリカーサーの生産能力を約2倍強に増強します。

またこれとあわせ、正極材料の原料となる硫酸ニッケルについても増産に向け設備を増強します。現在はニッケル工場(愛媛県)で年間約25,000トンを生産していますが、新たに播磨事業所(兵庫県)で約20,000トンの生産設備を建設中です。この完成は2014年2月を予定しています。

当社は今後も環境・エネルギー分野向け材料の強化を図っていきます。

材料事業の組織改正実施



サファイア結晶・基板

7月1日付けで、半導体材料事業部、機能性材料事業部、エネルギー・触媒・建材事業部を統合し、新たに「材料事業本部」が発足しました。

09中計において材料事業は「資源」「製錬」事業と並ぶコア事業の一つとして、環境・エネルギー分野の事業を拡大するとともに、成長戦略を描けない事業からの撤退を進めるなど成長分野への経営資源の集中を行ってきました。

こうしたなかで、新たに材料事業本部を発足させることにより、経営資源の効率的な活用と迅速な意思決定を行い、成長戦略を推し進めていくものです。

2011年度の材料事業の売上高は全体の約20%を占めており、今後もコア事業として成長を図っていきます。

中国における 販売・管理会社の営業開始



住友金属鉱山管理(上海)有限公司

当社は、中国・上海に販売および管理業務を行う現地法人「住友金属鉱山管理(上海)有限公司」を設立し、7月から営業を開始しました。

中国は世界の非鉄金属需要の30%~40%を占めており、巨大な消費地となっています。また多数の電子関連の企業が立地しており、当社にとって重要な市場となっています。

これまで当社が中国各地に材料事業の製造拠点を設けるなど進出していましたが、市場開拓を全社的な支援体制で推し進めるため、製品販売や管理業務を行う新会社を設立したものです。

新会社においては、新興市場での拡販とともに、自ら情報収集・分析し中国市場で活動戦略を打ち出し、他の新興市場進出のモデルとなる、という目標に向けて活動していきます。

8月

9月

10月

11月

菱刈鉱山における 下部鉱体の開発を決定



菱刈鉱山

菱刈鉱山(鹿児島県)において、現在採掘中の鉱体の下にも有望な鉱体が連続していることが確認されました。このため、2012年11月から工事を行い、今後この鉱体を新たに開発していくことを決定しました。これまでの探鉱の結果から予想すると、最大で30トンの金量の獲得が期待されます。

菱刈鉱山は日本最大の生産量を誇る金鉱山で、当社にとっては非常に重要な収益源となっています。また海外資源獲得に向けて、鉱山技術者養成の場所という側面ももっています。

当社は今後も菱刈鉱山の長期安定操業に向け、更なる金量の獲得に努めていきます。

研究開発体制の強化について



材料の研究

当社は10月1日、青梅事業所(東京都)内に材料開発センターを新設しました。従来材料部門では、材料事業本部内に開発部門がありましたが、研究開発部門(技術本部)のもとに新たに材料開発センターを設け、技術者を集結させて研究開発を強化することにしたものです。

またこれとあわせ、資源・製錬部門においても資源・精錬開発センターを新設します。2012年よりニッケル工場内に新たに新研究棟を建設し、資源・精錬に関する研究設備を設置する計画としており、2014年の完成を予定しています。この新研究施設に工場・研究所・工務部門の技術者を集結させ、研究開発のスピードアップとレベルアップを図るとともに、将来に向けた人材育成の場としています。

これらにより当社は研究開発体制を強化し、技術の優位性の確保と開発の加速化をめざしていきます。

自己株式の取得について

当社は9月14日の取締役会で、自己株式の取得を決議しました。取得する株式の上限数は11,000,000株、取得価額の上限は10,000百万円としていました。

これを受けて、9月18日から10月16日にかけて、自己株式の取得を実施しました。この間の取得株式数は9,692,000株、取得総額は9,999,290,000円となりました。

今後とも当社は経営環境の変化に対応して機動的な資本政策を可能とするため、適切な施策を行っていきます。

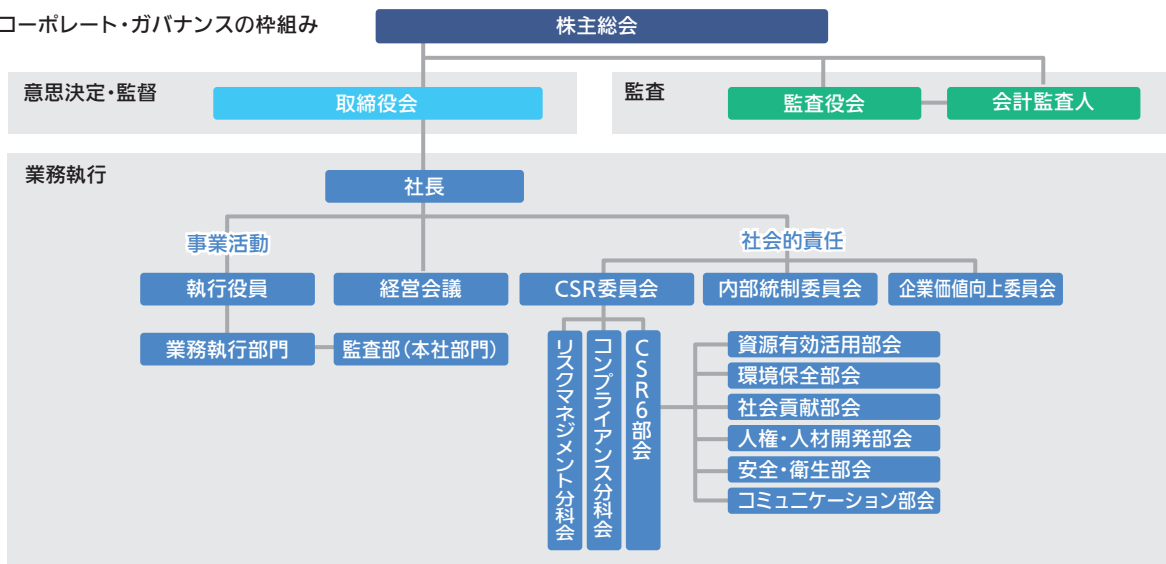
[特集1] SMMのコーポレート・ガバナンス

当社は、コーポレート・ガバナンスを、企業価値の最大化と健全性の確保を両立させるために企業活動を規律する枠組みであり、経営上最も重要な課題の一つとして位置づけています。今回は当社のコーポレート・ガバナンスの枠組みについてご紹介いたします。

社会への貢献と株主を含めたすべてのステークホルダーへの責任を果たすために

コーポレート・ガバナンスは「企業統治」と訳され、会社の経営をいかに決定するか、またその運営状況をいかに管理・監督していくかについての枠組みを意味しています。すなわち、会社がより発展していくための仕組み、一方では不祥事等を防止し関係者の利益を守る仕組みといえます。

●コーポレート・ガバナンスの枠組み



SMMでは、取締役会による「意思決定・監督」機能、社長を責任とする「業務執行」機能、監査役会と会計監査人による「監査」機能の3区分による組織体制を採用しています。

現在、取締役は8名で、うち1名が社外取締役です。定時取締役会は毎月1回開催されるほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、機動的な意思決定を行えるような体制を整えています。

監査役は4名で、うち2名が社外監査役です。監査役は、監査役会で決定された監査計画に従い、取締役の業務の執行等を監査しています。監査役会は毎月1回開催されるほか、必要に応じて随時開催しています。

監査役は、社長が主宰する全ての経営会議等に出席し質疑に参加する権利があり、実際に多くの会議に出席して、積極的に質問・意見を述べています。

社外役員からみたSMM

SMMには3名の社外役員がいます。それぞれの専門分野をいかし、経営に関わる多くの会議に出席し、さまざまな発言をしています。その役割をどのように認識しているか、またSMMはどのような会社として映っているのか、ご意見を伺いました。

牛嶋 勉 取締役

社外取締役は、社内出身の取締役とは異なる視点で経営監視機能を果たすことが求められていますから、独立した立場で、適法・適正に業務執行がなされているか、企業価値を維持・向上させる業務執行がなされているかという観点からチェックし、意見を述べるのが役割であると考えます。

住友金属鉱山の取締役会等では、コンプライアンスが厳しく求められており、また、積極的に企業価値を高めようという意思が窺われる業務執行であると感じています。



昭和25年生まれ

弁護士・税理士
牛嶋・寺前・和田法律事務所

選任理由

弁護士・税理士としての専門知識と豊富な経験に基づき、とくにコンプライアンスの観点から当社の経営全般に対して提言していただくことを期待して社外取締役に選任しています。

三和 彦幸 監査役

社外監査役は、外部の利害関係者、特に株主の視点を常に念頭におき、独立性を保持して業務にあたることが重要であり、そのことにより透明性が高く公正な経営監視体制を作ることができると考えます。

住友金属鉱山はあらゆる面において非常に真面目に取り組む会社だと思います。また会議においては、自由な意見を述べる機会が確保された上で、トップは常に明瞭な決定をしており、意思決定の透明性が確保されていると感じています。



昭和21年生まれ

公認会計士
三和公認会計士事務所

選任理由

監査法人における長年の監査の経験と会社経営における知見を活かしていただくことを期待して社外監査役に選任しています。

野崎 茂 監査役

企業価値をできるだけ高めていくためには、さまざまなステークホルダーとの関係を考慮することが必要です。そのため、第三者の視点に立っての議論を行うことが重要と考えています。

また、住友金属鉱山はコンプライアンス意識が役員・社員全体に強く浸透していると感じておりますが、これは培われた歴史のなす業なのではないでしょうか。その意識は各種会議でも発揮されており、さまざまな観点からの関連な議論が行われ、合意形成がなされていると見ています。



昭和23年生まれ

選任理由

金融機関における豊富な経験や国際的な視野・知見を活かしていただくことを期待して社外監査役に選任しています。

住友グループは、約400年にわたり「住友の事業精神」の実践を積み重ねて、事業を発展させてきました。私たちは、この先人たちが築き上げてきた「住友の事業精神」の持つ価値観、倫理観の重要性を認識し、SMMグループの事業と事業に対する社会からの信頼を確固たるものにするべく努力を重ねています。

重点6分野と2020年のありたい姿

2008年に、SMMグループが重点的に取り組む分野と「2020年のありたい姿」を決定しました。SMMグループは、「地球および社会との共存」を目的としてCSR方針に沿って、これらの分野に積極的に取り組んでいきます。

重点6分野	2020年のありたい姿
資源の有効活用	● 独自技術で資源を生み出す企業 ・ 低品位鉱、難処理鉱、都市リサイクル原料の処理技術による事業の展開
環境保全 CO ₂ 削減(省エネルギー) 生物多様性	● 先進技術を使って世界標準の温暖化対策を実行している企業 ・ 産業廃棄物ゼロ ・ 環境低負荷製品(創エネルギー、蓄エネルギー、省エネルギー)に関する材料事業拡大
地域貢献・社会貢献	● 会社とともに地域に根づいた社会貢献活動を行うことに、従業員が誇りを持つ企業
人権・人材の尊重	● 従業員の人権と多様性を尊重し、高い人権意識を有する人材を育成するとともに、勤労意欲と能力に応じて活躍の場を均等に与える企業 ● SMMグループの事業活動により影響を受ける人々の人権を尊重する企業 ● 社会基盤の整わない地域や紛争地帯において人権侵害を生じさせる主体へ加担しない企業
安全・衛生の確保	● 安全を最優先し、快適な職場環境を確保している企業 ・ グループ労働災害ゼロ(協力会社も含む) ・ 職業性疾病ゼロ ・ 衛生保護具(耳栓、マスク)不要職場の実現 ・ 働く人が心身ともに健康で、明るく活力のある職場の実現
ステークホルダーとのコミュニケーション	● 地球規模ですべてのステークホルダーとコミュニケーションが図れる企業

SMMグループのCSRの目的

地球および社会との共存

資源の有効活用の取り組み

■ 電池材料のリサイクル

ハイブリッド車の販売が増加するなか、使用された電池には各種レアメタルが含まれていることから、そのリサイクルについても注目が集まっています。SMMはハイブリッド車の正極材として広く使われている水酸化ニッケルを供給しており、その回収は社会的な要請といえます。

ニッケル工場では2010年から、使用済ハイブリッド車からの「バッテリー to バッテリー」リサイクルを開始しました。回収された電池から高純度のニッケルを製造し、再び電池用材料としています。SMMは保有技術をいかして、資源の有効活用に努め、環境保全に積極的に取り組んでいきます。

■ リサイクルによる資源の有効活用

亜鉛のリサイクル

製鉄の原料となる鉄スクラップは多くの亜鉛を含むため、鉄の生産過程で発生するダストには亜鉛が含まれます。(株)四阪製錬所ではこれをリサイクルして粗酸化亜鉛を生産しています。そして、播磨事業所ではこの粗酸化亜鉛から蒸留亜鉛を生産しています。このように、SMMグループの亜鉛事業はスクラップから亜鉛をリサイクルする事業となっています。

ニッケル水素電池リサイクルプロセスフロー



CSR報告書2012

当社は、2012年10月1日に「CSR報告書2012」を発行しました。

当社のCSR報告書は、GRI（CSR報告書発行に関する唯一の国際的なガイドライン）で最高水準となるA+を、昨年に引き続き取得しています。

情報の網羅性を重視した全編版と読みやすさを重視したダイジェスト版の2種類を制作しており、どちらも当社のホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

「CSR報告書2012」掲載ページ <http://www.smm.co.jp/ir/library/csr/>



連結財務諸表(要約)

当上半期の売上高については、主に非鉄金属価格の下落により製錬事業で売上が減少したこと、ボンディングワイヤー事業からの撤退により材料事業で売上が減少したことにより、前年同期間と比べ358億円減少し、3,985億円となりました。営業利益については、金属価格の下落により資源部門および製錬部門で減益となったことにより、前年同期間と比べ54億円減少し、397億円となりました。経常利益では、持分法投資利益の減少により、前年同期間と比べ223億円減少し、392億円となりました。当期純利益は前年同期間と比べ103億円減少し、272億円となりました。

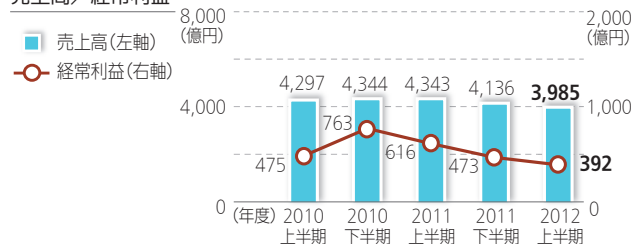
■売上高

3,985億円(前年同期間比8.2%減)

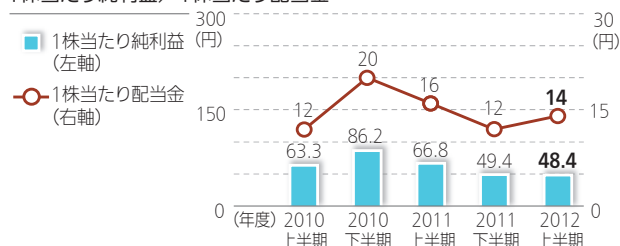
■経常利益

392億円(前年同期間比36.3%減)

売上高／経常利益



1株当たり純利益／1株当たり配当金



四半期連結損益計算書

(単位：百万円)	当第2四半期累計 2012年4月1日～ 2012年9月30日	前第2四半期累計 2011年4月1日～ 2011年9月30日
売上高	398,452	434,261
売上原価	336,266	368,049
売上総利益	62,186	66,212
販売費及び一般管理費	22,444	21,092
営業利益	39,742	45,120
営業外収益	6,217	24,290
営業外費用	6,751	7,856
経常利益	39,208	61,554
特別利益	190	106
特別損失	5,551	12,184
税金等調整前四半期純利益	33,847	49,476
法人税等合計	6,772	6,320
少数株主利益	△125	5,608
四半期純利益	27,200	37,548

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	当第2四半期累計 2012年4月1日～ 2012年9月30日	前第2四半期累計 2011年4月1日～ 2011年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	64,040	33,945
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 40,542	△ 66,227
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,738	46,263
現金及び現金同等物に係る換算差額	344	642
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	32,580	14,623
現金及び現金同等物の期首残高	185,708	128,311
現金及び現金同等物の四半期末残高	218,288	142,934

当上半期末の資産は、タガニートプロジェクトへの投資の増加などにより、前期末(2012年3月末)と比べ316億円増加し、1兆1,783億円となりました。負債については、タガニートプロジェクトのための借入金増加などにより、前期末と比べ125億円増加し、4,332億円となりました。純資産については、純利益の計上により、自己資本が増加しました。自己資本比率は、負債が増加したものの57.7%と引き続き健全な財務体質を維持しています。

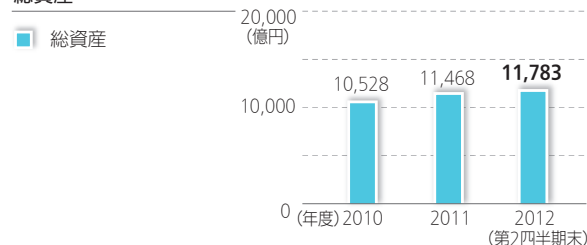
■総資産

11,783 億円(前期末(2012年3月末)比2.8%増)

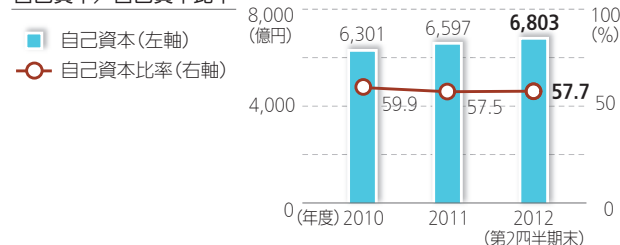
■自己資本

6,803 億円(前期末(2012年3月末)比3.1%増)

総資産



自己資本／自己資本比率



四半期連結貸借対照表

(単位: 百万円)	当第2四半期末 2012年9月30日	前期末 2012年3月31日
資産の部		
流動資産	515,533	499,495
固定資産	662,812	647,264
有形固定資産	304,293	291,222
無形固定資産	10,068	10,411
投資その他の資産	348,451	345,631
資産合計	1,178,345	1,146,759
負債の部		
流動負債	174,364	186,953
固定負債	258,870	233,767
負債合計	433,234	420,720
純資産の部		
株主資本	747,784	730,036
資本金	93,242	93,242
資本剰余金	86,063	86,063
利益剰余金	593,076	572,576
自己株式	△ 24,597	△ 21,845
その他の包括利益累計額	△ 67,479	△ 70,316
少数株主持分	64,806	66,319
純資産合計	745,111	726,039
負債純資産合計	1,178,345	1,146,759

会社情報

会社概要 (2012年9月30日現在)

商号	住友金属鉱山株式会社 Sumitomo Metal Mining Co., Ltd.
本社所在地	東京都港区新橋5丁目11番3号
創業	天正18年(1590年)
設立	昭和25年(1950年)
資本金	932億円
従業員数	連結:8,375名 単独:2,155名

取締役および監査役

(2012年9月30日現在)

取締役社長	家守 伸正*
取締役	中里 佳明*
	久保田 毅
	川口 幸男
	土田 直行
	緒方 幹信
	佐藤 元
社外取締役	牛嶋 勉
常任監査役	田尻 直樹(常勤)
監査役	中重 一雄(常勤)
社外監査役	三和 彦幸
	野崎 茂

注 *印は、代表取締役です。

執行役員

(2012年9月30日現在)

社長	家守 伸正
専務執行役員	川口 幸男
	中里 佳明
	久保田 毅
常務執行役員	山崎 融
	土田 直行
	伊藤 敬
	橋本 安司
	真部 良一
	緒方 幹信
執行役員	中里見 徹
	後根 則文
	飯島 亨
	池田 和夫
	黒川 晴正
	岡田 功
	杉浦 卓
	佐藤 元
	小田 浩久
	角谷 博樹
	浅井 宏行

株式状況

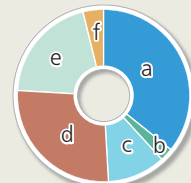
株式の状況 (2012年9月30日現在)

発行可能株式総数	1,000,000,000株
発行済株式総数	581,628,031株 (うち単元未満株式数2,312,174株)
株主数	58,018名 (うち単元未満株主数14,077名)

株式分布状況 (2012年9月30日現在)

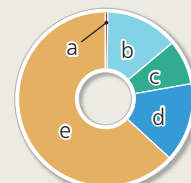
所有者別の状況

区分	所有株数(株)	(%)
a 金融機関	208,082,930	35.78
b 証券会社	14,122,044	2.43
c その他の法人	63,336,573	10.89
d 外国法人等	156,077,397	26.83
e 個人その他	117,677,920	20.23
f 自己名義株式	22,331,167	3.84



所有株式数別の状況

区分	所有株数(株)	(%)
a 1~999	2,312,174	0.40
b 1,000 ~9,999	78,582,774	13.51
c 10,000 ~99,999	48,372,345	8.31
d 100,000 ~999,999	85,041,930	14.62
e 1,000,000 ~	367,318,808	63.16



株式メモ

事業年度

毎年4月1日から翌年3月31日まで

株主総会

定時株主総会 毎年6月

臨時株主総会 必要の都度

基準日

定時株主総会 3月31日

期末配当 3月31日

中間配当 9月30日

株主名簿管理人および特別口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先)

〒183-8701

東京都府中市日鋼町1番10

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)

0120-176-417

※2013年1月より郵便物送付先・電話照会先が変更となります。

(郵便物送付先) 〒168-0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 0120-782-031

公告掲載方法

電子公告とする。ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載する。

株主のみなさまのご意見をお聞かせください

株主のみなさまからご意見をお聞かせいただき、よりよいIR活動を行っていくためアンケートを実施いたします。

今回、9月末時点で1,000株以上の株式をお持ちの方にアンケートはがきを同封しておりますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

ご回答いただいた方の中から50名の方に、オリジナル図書カード(1,000円分)を贈呈いたします。

なお当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。



株式に関するお届けおよびご照会先

証券会社に口座を開設されている株主様は口座のある証券会社宛に、特別口座に口座がある株主様は特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社証券代行部までお問い合わせさせていただきますようお願いいたします。

単元未満株式買取および買増のご請求について

株主様がご所有の単元未満株式(1~999株)を当社が買取らせていただく制度がございます。また、株主様がご所有の単元未満株式を単元株式とするため、必要な数の株式を買増する制度がございます。単元未満株式の買取および買増請求につきましては、上記「株式に関するお届けおよびご照会先」にお問い合わせのうえ、お手続きをお願いいたします。

配当金のお受け取り方法について

配当金のお受け取りにつきましては、ゆうちょ銀行または郵便局の窓口において配当金領収証と引換えにお受け取りいただく方法のほかに、より安全で確実な方法として、ご指定の銀行口座またはゆうちょ銀行の貯金口座へ継続的にお振り込みする方法がございます。また、証券会社に口座を開設されている場合は、証券総合口座等へのお振り込みも可能です。お振り込みをご希望される場合は、上記「株式に関するお届けおよびご照会先」にお問い合わせのうえ、お手続きをお願いいたします。

当冊子についてのお問合せ先

 **住友金属鉱山株式会社** 広報IR部

〒105-8716 東京都港区新橋5丁目11番3号
TEL.03-3436-7705 FAX.03-3434-2215

当社ホームページのご案内

ホームページでも、投資家情報をご紹介しますので、ぜひご覧ください。

<http://www.smm.co.jp/>

